

システム情報工学研究科特定課題研究報告書概要

年 度	平成 21 年度	学位名	修士( ビジネス )
専 攻	経営・政策科学	専攻	著者氏名 高瀬 亘
指導教員氏名 佐藤 亮			
報告書題目 サービス・イノベーションとしてのものづくりの発展 (ITIL 活用による統合生産システムの分析)			
<p>報告書概要</p> <p>企業競争では、調達や生産、物流など部門間・企業間の連携を、いかに無駄なく迅速に行うかが求められている。1991 年、東芝青梅工場は、工場生産部門と販売部門を統合させた生販統合型 CIM を構築し、両部門間の連携を迅速に行うことで、顧客へのリアルタイムな納期回答、リードタイム・棚卸資産保有日数の大幅な短縮に成功した。</p> <p>本章では、1991 年に構築された東芝青梅工場の CIM 構築事例を、その当時起きたイノベーションとして捉え、ものづくりの発展をサービス・イノベーションの観点から考察した。まず SCOR モデルを活用して青梅工場のビジネスプロセスを可視化し、工場内の情報システムとビジネスプロセスの関係を把握した。続いてこの結果をもとに、青梅工場の CIM 構築を ITIL の観点から分析した。ITIL をチェックリストとして活用することで、青梅工場の CIM 構築の設計において優れていた点、不足していた点を考察した。最後に SSM-IA を活用して、青梅工場の CIM 構築をまとめ、考察した。その結果、青梅工場 CIM の最も要となったサービスは表示機能であるという結論に至った。</p> <p>また、SCOR モデル、ITIL、SSM-IA の 3 つのフレームの組み合わせについても検証した。その結果、SCOR モデルを使用することで、ビジネスプロセスと情報システムの関係性を可視化して捉える事ができるため、その後の ITIL の分析を進めやすくなることが分かった。しかし、ITIL を活用しての SSM-IA のオブジェクトの抽出については、オブジェクトが 3 つしか抽出されず、ITIL と SSM-IA のフレームの組み合わせ方には今後検討が必要であるという結論となった。</p>			
審査日	平成 22 年 2 月 3 日		
審査員	(大学名 職名)	(学位)	(氏名)
主査	筑波大学 准教授	Master of Science in Financial Economics	高安 雄一
副査	筑波大学 教授	理学博士	佐藤 亮
副査	筑波大学 准教授	Ph.D.in Organizational Behavior	渡辺 真一郎